

第6回名勝洗足池公園保存活用連絡協議会 議事概要

日時：令和6年7月25日（木）14時00分～16時00分

場所：洗足風致協会会館2階会議室

〈当日資料〉

- ①次第
- ②第5回協議会議事概要
- ③第5回協議会での指摘事項と対応方針
- ④資料-1 名勝公園マネジメント計画について
- ⑤資料-2 水環境改善対策実施計画について
- ⑥資料-3 名勝洗足池公園の文化財活用事業について

発言者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
-	--以下議事内容--
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事は3件である。 ・議題1「名勝公園マネジメント計画について」、事務局から説明願いたい。
事務局	（資料-1 名勝公園マネジメント計画について 説明）
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の協議会で事務局から紹介あった内容をブラッシュアップし、皆様からその時にいただいたご意見を反映させている。 ・シークエンス景観において、見せるところ、見せないところはどのように扱うのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、園内には廃棄物置き場等、景観を阻害するものがあるため、影響の少ない場所への移設や、生垣で隠す等、具体的な方法はこれから検討していく。例えば4ページの④史跡広場ゾーンの欄で、取組内容に「景観阻害に関する点検及び改善（ごみ集積場等）」を記述しており、解決すべき課題ととらえている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の指摘に対しての対応について、説明願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・前回資料の指摘事項と対応方針で、⑤桜広場ゾーンは「子供が遊び、楽しめる所、賑わいを」と記載したが、高齢者も体操等使用する点も配慮してほしいという要望をいただいたため、管理の方針として「子供から高齢者までが集い、花見や運動を楽しめる名勝の賑わい」と修正している。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・このように、前回の指摘を反映させて、今回の資料を作っている。 ・資料では、NODE（ノード）という人が集まる地点（洗足池公園では入口周辺）からの景観作りや、公園周囲からの見せ方及び配慮の仕方にも言及され、前回より見やすくなっている。シークエンス景観についても、より検討されている。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・1ページ目の左上、1.名勝公園マネジメント計画策定のプロセスの項で、「活用事業の保護・検討」とあるが、こういった意図なのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・洗足池公園の中では、色々な形でイベントや行事等の利用がある。例えば、「蛍のタベ」や「春宵の響き」があり、これらを活用事業と位置付けており、事業の継続・継承を図っていく。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「2.ゾーンに対する視点の整理」で、「視点」という言葉を使っているが、一般的な言葉として「視点」は「観点」「着眼点」の意味がある。一方で、景観の用語としては、「どこに立って、どこに座って景観を見るか」という、その場所自体を指す。それらが混同した文章になっている。 ・「ゾーン外の景観」とは、正しく言うと「ゾーン外への景観」や「ゾーンを越えた景観」であり、適切に表現した方がわかりやすい。 ・シークエンス景観について、2ページ目の右側にアイウエとあるが、園路沿いの断面、水周辺環境の特徴の違いによって分けたことはわかりやすい。一方で、3ページに「ゾーンを横断した景観の連続性」と説明されているが、「ゾーン外の景観」との違いが分かりづらい。「シークエンス景観」の説明は、2ページの右側だけで良いように思う。洗足池公園は園路沿いに歩いていて、片側に池を見ながらぐるりと回る、単純なシークエンスなので、園路沿いの環境が変わることに注目して定義し、それらの繋ぎ方や統一性を考えていくべきだと考える。 ・4、5ページの取り組みの方針では、シークエンス景観について現状では記載されていないため、引き続き具体的に検討する必要があると思う。
東京都	<ul style="list-style-type: none"> ・シークエンスは水辺に近いところを、ぐるりと周遊していくようなイメージだと思う。 ・公園外の「NODEからの景観」や公園内の「シークエンス景観」は、どちらも動線と結びついた考えだが、それらの間をどうやって繋いでいくのかは、今後検討されるということが良いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえて、今後検討していく。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「管理の方針」という表現では、「メンテナンス」を表していると誤解を招く。ストレートな表現として、「マネジメントの方針」でも良いのではないかと。今年度から区のパークマネジメントマスタープランを作っていくと聞いているが、洗足池公園の「マネジメント計画」はその先駆けになるため、用語の使い方は注意する必要がある。 ・内容は今年度検討していき、令和7年度中の完成を目標にしている。まだ委員の皆さんからご意見をいただく機会が2回ほどあるため、その内容を踏まえて完成を目指すスケジュールとなっている。 ・続いて、議題2「水環境改善対策実施計画について」、事務局から説明願いたい。
事務局	<p>(資料-2 水環境改善対策実施計画について 説明)</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の資料は「これからシミュレーションをしていく」というところで、終わっていたが、今回は水質改善の目標設定、対策効果比較のシミュレーションの結果ということで説明があった。

委員	・透明度はわかるが、透視度とはどうやって測るものなのか。
事務局	・透明度は、30cmの丸い板を沈めていき、それを上から見て何mまで見えるのかを表し、透視度は、水を採取してメスシリンダーに入れ、底部の十字のマークが何cm離れて見えるかを表している。 ・両方とも水の透明さを測るものとして確立しているため、両方を用いて検証していきたいと考えている。
副委員長	・透明度と透視度が比例関係にあるのであれば、調査するのはどちらか一方で良いのではないかと。指標は少ないほど実用的と考えられる。
事務局	・先日、透明度を測ったところ、0.8~0.6m程度だった。夏季はプランクトンが多く発生しており、冬季は水が透き通る傾向にあり、池底まで沈めても見える可能性があるため、透明度だけでは水質の向上を評価するのに不足だと考えている。 ・二つの指標の活用方法は、まだ検討段階にある。
副委員長	・例えば洗足池の水質は季節によって違ってくるといふことか。
事務局	・大きく違いが出ると思われる。
副委員長	・1ページ目の右側の表01で、水面面積が平成2年と29年で違うが、27年間で縮小したという理解で良いか。
事務局	・そのとおりである。
副委員長	・2ページ目のシミュレーションについて、水質浄化施設を現状のままとその半分にして検証した結果、例えばケース①と④を比べると、水質浄化施設の条件が違うが、成分の結果はほとんど変わらない。これが意味していることを教えてほしい。
事務局	・水質浄化施設の稼働規模を現状の半分にしても、水中の環境に対して大きな影響はないと考えている。
副委員長	・浄化施設の規模を減らすのはコストダウンという狙いもあるものか。
事務局	・そのとおりである。
副委員長	・今回、検討されていた条件は「現状の半分」だが、もっと最適な条件が別にあるか。例えば「3分の1でも同じく影響がない」等はないものか。
事務局	・昨年度の委託事業では、3分の1、4分の1の検討はやらなかったが、ご指摘いただいたような可能性はあると考えている。
副委員長	・もし、コストカットが目的であれば、より最適な条件があるかもしれない。
委員	・覆砂はやってもらいたくない。水量の減少や生き物の環境への影響も心配である。 ・また、何回か発言しているが、イケチョウガイを導入して水質浄化をするという話についてはどのようにお考えか、お聞かせ願いたい。
事務局	・現在のこのシミュレーション結果を受け、植生浄化を検討したいと思っている。環境に大きく影響を与えないことと、コスト的には安いことが理由である。 ・覆砂は、費用と、将来の環境に対して心配な点がある。 ・井戸水はリンや窒素を多く含んでおり、それを入れてしまうと水質が今より悪化するという結果が出たため、採用は難しい。 ・イケチョウガイという貝を入れるという案は昔ご紹介したことがあり、保存活用計

	<p>画の中に記載している。ただ、今まで全くいなかった生物を池に入れた場合の環境に対する影響について心配があり、今のところ、貝についてはシミュレーションしていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在もう1つ考えている案は、池の底に堆積しているヘドロを減らしていく方法であり、今後検討を進めたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、ヘドロを除去したこともあった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・<small>しゅんせつ</small>浚渫は直接的な方法だが、浚渫作業自体の費用と、汚泥を処分する費用も掛かることが難点であるため、他の方法を検討している。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・この件についても、事務局にてさらに検討をお願いしたい。 ・コストについて言及があったが、具体的な金額が今後の検討材料になるため、いずれは必要な情報だと考える。 ・大田区でグリーンインフラの整備事業を進めているが、その効果の1つとして、雨水の地下浸透がある。洗足池公園の周辺の風致地区や景観重点地区等の、いわゆる、まちづくりの中での調整によって、周辺を優先的に透水性舗装にしていくこと等ができないだろうか。洗足池の水質保全を考えていくことは大事ななどと思う。
委員（都市基盤整備部長）	<ul style="list-style-type: none"> ・透水性舗装については、規模や範囲を定めるのが難しい。また、鉄道沿線のまちづくりとして検討しており、そのなかで透水性やグリーンインフラの視点が出てくると思うので、情報を公開していきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、議題3「名勝洗足池公園の文化財活用事業について」、事務局から説明願いたい。
事務局	<p>（資料-3 名勝洗足池公園の文化財活用事業について 説明）</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深い資料があるため、またご質問については、文化財担当にご連絡いただきたい。 ・最後に事務局から連絡事項をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の本協議会については、あと2回の開催を予定している。 ・次回、第7回協議会の開催は10月に予定しており、委員の皆様には改めてご案内する。 ・指摘事項と対応方針は、多少訂正が必要な部分があるため、ホームページへは訂正してから公開する。 ・以上をもって、第6回名勝洗足池公園保存活用連絡協議会を終了する。